

【10-3-11】 主要科目の特長（リハビリテーション学部理学療法学科）

理学療法学科のカリキュラムを構成する科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」についてを理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞（＜身体理解＞）、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞（＜身体理解＞）、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を学びます。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実が、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、す

すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

(2) 専門科目

① 専門基礎科目

《専門基礎科目》では、医学としての基本となる〈人体の構造と機構および心身の機能〉、人体機能の低下や亢進によって起こる疾病・障害を理解し、治療へと発展するための〈疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療〉、社会構造における医療の成り立ちを理解するために〈保健・医療・福祉とリハビリテーション理念〉を置き、さらに本学部の基本である〈基礎理学療法学〉〈理学療法のための評価学〉を配置して基礎的な知識、技術の修得をめざします。

〈人体の構造と機構及び心身の機能〉には「解剖学 A・B」「体表解剖学実習」「生理学」「運動生理学」などを、〈疾病および障害の成り立ちと医学的診断と治療〉には「病理学」「内科学」「整形外科学」「臨床神経学」「精神医学」「小児科学」「リハビリテーション医学」などを、〈保健・医療・福祉とリハビリテーション理念〉には「リハビリテーション概論」「社会福祉概論」「ヘルスプロモーション論」などを配置します。〈基礎理学療法学〉には、「専門セミナー I・II」「臨床見学実習」「理学療法学概論」「運動学」「人間発達学」「医療統計学」などを配置し、〈理学療法のための評価学〉には「機能障害診断学」「活動制限診断学」「生体工学評価論」「痛み学評価論」「理学療法電気検査学」などを配置します。

② 専門実践科目

《専門実践科目》では、本学部の目的である理学療法について実践から応用にいたるまでの幅広い科目群として、医療的な個々の疾病・障害を実践するための〈疾病・障害に対する理学療法学〉、医療以外の理学療法を実践するための〈地域における理学療法学〉を置きます。

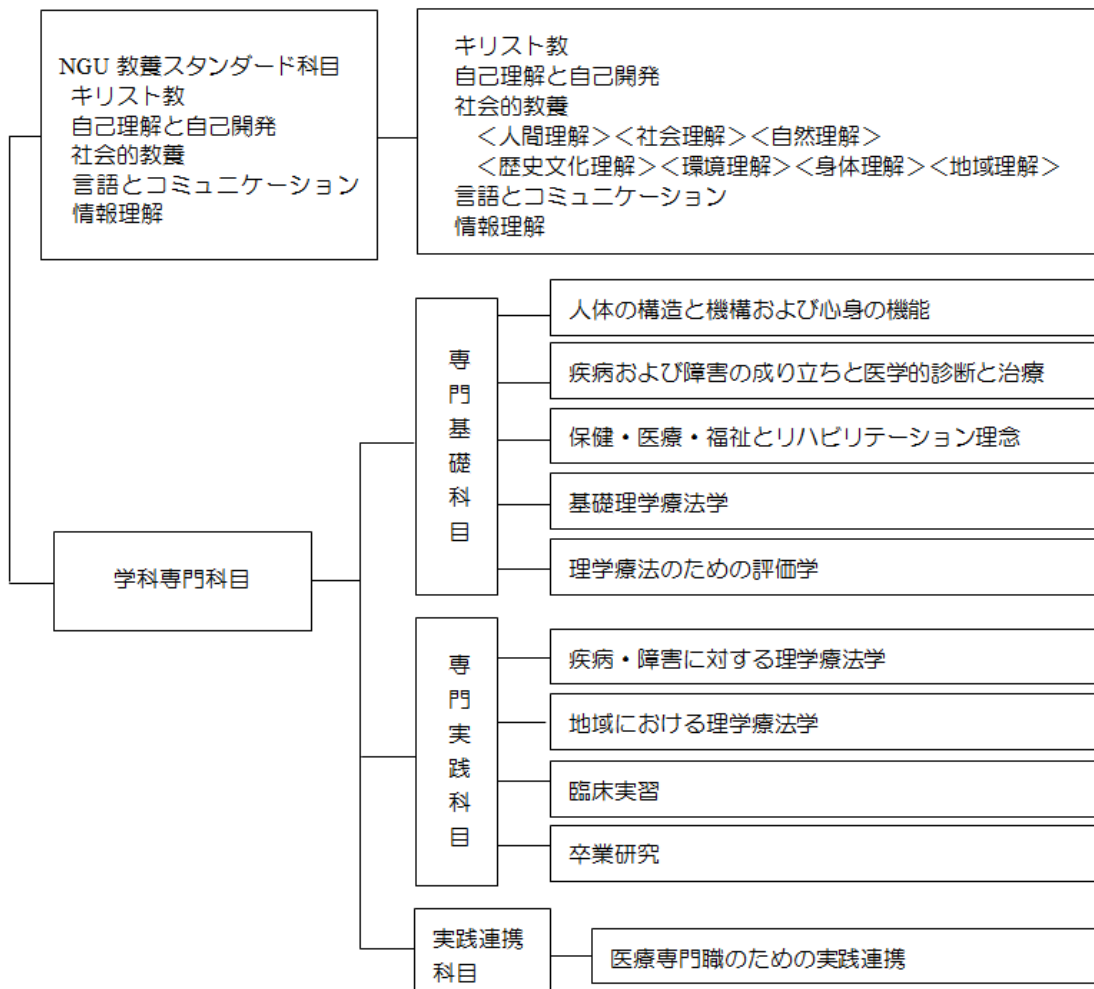
〈疾病・障害に対する理学療法学〉には「運動療法学 A・B・C」「物理療法学」「日常生活活動学」「義肢装具学」「基礎運動療法学」「臨床運動療法学」「脊椎疾患運動療法学特論」などを配置し、〈地域における理学療法学〉には「地域理学療法学」「地域リハビリテーション演習」「リハビリテーション環境論」を配置します。

これらを応用する〈臨床実習〉として、理学療法評価を中心とした「臨床実習 I」、評価から治療計画を立案し実践する「臨床実習 II・III」を配置します。さらに、〈臨床実習〉をより円滑に進めるための「臨床実習指導 I・II」、臨床実習で体験してきたことが実践として活かされているかどうか、実践能力、思考能力を評価した上で、知識、技術の学生間共有、修正を試み、理学療法の総合的な実践力の修得をはかる「理学療法症例検討演習」を配置します。

③ 実践連携科目

《実践連携科目》では、理論に裏打ちされたプロフェッションの育成を教育の基本方針にあげていることから、医療専門職としてのあるべき姿を培うべき科目群《医療専門職のための実践連携》を配置し、「理学療法研究法演習Ⅰ・Ⅱ」「理学療法実践論」を配置します。

＜リハビリテーション学部理学療法学科の科目の体系＞



(3) 演習科目

リハビリテーション学部では、1年次に「基礎セミナーⅠ」および「基礎セミナーⅡ」、2年次に「専門セミナーⅠ」および「専門セミナーⅡ」、3年次に「理学療法学研究法演習」、4年次に「卒業研究」を配置し、それぞれの段階で少人数によるゼミナール形式の演習をおこないます。

① 「基礎セミナーⅠ」および「基礎セミナーⅡ」

「基礎セミナーⅠ」および「基礎セミナーⅡ」は《NGU 教養スタンダード科目》の中に置かれている科目で、導入教育および基礎教育をフォローするための科目です。

「基礎セミナーⅠ」では、有意義な大学生活を送るために、名古屋学院大学について理解し、大学生活を送る上での基本的な心構え（ソーシャル・ステューデント・スキル）を養います。また、大学での学習方法、レポートの書き方、個人やグループでおこなう発表方法などを身につけます。

「基礎セミナーⅡ」では、「基礎セミナーⅠ」で学んだ学習スキルを、理学療法士として実際に活用し応用できるように指導します。また医療、保健、福祉に関わる職業人として不可欠な接遇、情報収集、プレゼンテーション、ディスカッションなどの能力と技術の向上、さらに学修に対する意識の向上をめざします。

② 「専門セミナーⅠ」および「専門セミナーⅡ」

「専門セミナーⅠ」および「専門セミナーⅡ」では、単に教養を身につけることを目的とせず、その過程において医療人としての態度を身につけることを目標としています。グループ学習の中でチーム医療を実践する上で必要となる態度を養い、《学科専門科目》間の結びつけに重点を置いて科目間の縦横のつながりから幅広い視野での思考が展開できるようにします。きめ細かな教育のため、学科専門教育担当の専任教員による少人数制とし、多くのクラスに分けて実施します。

「専門セミナーⅠ」では、前半に解剖・運動・生理学の復習を題材にして、グループ学習を実践し、その方法と重要性を学びます。後半には医学研究に関わる基本的事項を学びます。また、「専門セミナーⅡ」では英論文の抄読・発表と症例検討をおこないます。症例検討では知識の復習のみならず、ロールプレイなどによる実践をとおして理解を深めます。

③ 「理学療法学研究法演習Ⅰ・Ⅱ」

「理学療法学研究法演習Ⅰ・Ⅱ」では、専門領域で自らの関心を絞り込み、卒業研究テーマを模索しながら、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。

④ 「卒業研究」

「卒業研究」では、専門領域あるいは保健医療福祉に関する領域に係るテーマの中から、各自の関心、課題にもとづきテーマを設定するとともに、そのテーマに対し、それまでに得た知識・技術を用いた研究をおこないます。専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文にまとめます。

◎専門科目の一部をピックアップ

解剖学・解剖学実習

細胞・組織などの人体の構成要素や、発生学を理解し、骨格や、各筋肉の名称および働きについて学びます。そのうえで、内臓学と神経学についても学修。理学療法士の資格を得るために必要不可欠な人体構造の基本的知識を修得します。

臨床実習

3・4年次に、本学が協定する協力病院で、理学療法評価を中心とした4週間の実習、6週間の総合的な理学療法実習を行います。リハビリテーションチームの一員として実際に患者さんの担当となり、コミュニケーションにも努めながら、実践力を養います。

卒業研究

理学療法の専門領域や保健医療福祉に関する領域から、自身の関心や課題をもとにテーマを設定し研究。研究成果は、発表した後、卒業論文にまとめます。科学的な思考で問題を解決する能力が養われるとともに、データ収集などの技術も得られます。